

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 かたじけなし  
① どうしようもない ② はしたない ③ おそれ多い ④ 恥ずかしい
- 2 すきずきし  
① 好色めいている ② 興ざめた ③ 気にくわない ④ もの足りない
- 3 いたはる  
① 準備する ② 反対する ③ 心配する ④ 骨を折る
- 4 さかし  
① 当世風だ ② 気が利いている ③ 風流だ ④ 頼もしい
- 5 なやむ  
① 病気で苦しむ ② 供養する ③ 相談する ④ がまんする
- 「B」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

6 知らぬわざしてまろも困じにたり。そこも眠たげに思ほしためり。(落窪物語)

- ① 疲れ ② 遅れ ③ 窮し ④ 損し
- 7 人におくれて、四十九日の仏事に、ある聖を請じ侍りしに、説法いみじくして、皆人涙を流しけり。(徒然草)

(訳) 人に「」て、四十九日目の法事に、ある僧を招きましたところ、説法がとてもありがたくて、だれもが涙を流した。

- ① 依頼し ② 言われ ③ 先立たれ ④ ならっ

8 何とにかあらむ、かきくらしで涙こぼる。(蜻蛉日記)

- (訳) (手紙を書いていると)何とということであろうか、「」て涙がこぼれる。  
① 感動で心が満たされ ② 悲しみが心を暗くし ③ 心が傷ついてしまっ ④ 頭が真っ白になっ

9 乞食、路のほとりに多く、憂へ悲しむ声耳に満てり。(方丈記)

- (訳) 物乞いをする人が、道ばたに多くいて、「」悲しむ声が至る所で聞こえる。  
① 世をはかなみ ② 心を痛め ③ 訴え ④ 叫び

10 後の世のこと心に忘れず、仏の道うとからぬ、こころにくし。(徒然草)

- (訳) 来世のことを心に忘れることなく、仏道に無関心でない人は、「」。  
① 興ゆかしい ② 心が穏やかだ ③ 憎らしい ④ 好きになれない

11 日ごろ月ごろしるきことありてなやみわたるが、おこたりぬるもうれし。(枕草子)

- (訳) 何日も何か月もはつきりした症状があつてずっと病をわずらっていたのが、「」たのもうれしい。  
① 外に出られ ② 病気がよくなっ ③ 勘違いだっ ④ ゆっくりでき

12 御かたちいと清げに、あまりあたらしきさまして、物より抜け出でたるやうにぞおはせし。(大鏡)

- (訳) (道頼殿は)ご容貌がとても美しく、(この世には)あまりにも「」様子で、物語の絵から抜け出してきたようであらうしやうた。

- ① もつたいない ② 新鮮な ③ すてきな ④ 初々しい

13 これを思ふに、女なりともなほ寝所などはしたためてあるべきなり。(今昔物語集)

- (訳) これを思うと、女であってもやはり寝所などは(危険に備えて)「」ているべきである。  
① 警戒し ② 用意し ③ 隠し ④ 処理し

14 なやましう侍りつれば、しばしためらひて。(落窪物語)

- (訳) 気分が悪うございましたので、しばらく「」て。  
① 静養し ② 立ち止まっ ③ 躊躇し ④ 外に出

15 老い衰へて世に出で交じらひしは、をがましく見えしかば、われはかくて閉ぢこもりぬべきぞ。(更級日記)

- (訳) 老い衰えて世間に出て宮仕えしていた人は、「」見えたので、私はこのまま隠退してしまふつもりだ。  
① おそれ多く ② 気むずかしく ③ むなしく ④ 愚かしく

解答

【新二年生用】 古文単語330三訂版 P 192 ~ P 203

- 1 ( ( ③ ) )
- 2 ( ( ① ) )
- 3 ( ( ④ ) )
- 4 ( ( ② ) ) )
- 5 ( ( ① ) ) )
- 6 ( ( ① ) ) )
- 7 ( ( ③ ) ) )
- 8 ( ( ② ) ) )
- 9 ( ( ③ ) ) )
- 10 ( ( ① ) ) )
- 11 ( ( ② ) ) )
- 12 ( ( ① ) ) )
- 13 ( ( ② ) ) )
- 14 ( ( ① ) ) )
- 15 ( ( ④ ) ) )